

会議録

会議の名称	第3回 加東市環境市民会議
開催日時	令和2年2月25日(火) 午後7時から午後9時まで
開催場所	加東市役所3階301、302会議室
議長の氏名 竹村厚司 出席委員の氏名 【1班】藤本真佐己 片山剛志 出井和典 井上綾乃 小薮準也 中嶋研二 【2班】竹村厚司 黒崎 昇 森 美佳 丸山健次 柳 隆之 衣笠比佐志 藤井哲夫 【3班】今川哲郎 植田竹吉 井上益子 戸田恵造 笠井郁男 丸山正人 藤井悦雄 欠席委員の氏名 芦谷恒憲 臼井純男 余部 衛	
説明のため出席した者の職氏名	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 市民協働部生活環境課 課長 眞海秀成 同副課長 藤原義守 市民協働部生活環境課資源循環係 係長 丸山耕市 市民協働部生活環境課環境政策係 主査 今岡良介	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1 開会 2 第2回加東市環境市民会議の振り返り 3 協議事項（ワークショップ） 市民・事業者が目指す加東市のすがた、10年後の生活・事業活動のイメージを3班に分かれて、5分野毎（廃棄物分野、地球環境分野、自然環境分野、生活環境分野、協働・環境学習分野）に、ワークショップを行いました。その後、班毎に発表を行いました。 【1班】 廃棄物分野の課題としては、個人の意識が低く不法投棄やポイ捨てが減らないという課題が挙げられています。また、市外の人や通過する人が捨てているという課題も挙げられています。小売店でのビニール袋の有料化やごみ袋の値上げなどができればよいという意見が挙がっています。目指す姿としましては、ポイ捨てや不法投棄のないまちとなっています。 地球環境分野の課題では、市民ができることが少なく、エコカーの導入や省エネを意識することなどしかないという点が挙げられています。また、直接影響がないと市民の方も意識しにくい、深刻に考えにくいというような課題が挙げられています。また、森林を伐採して太陽光パネルが設置されたりすることも課題として挙げられました。 目指す姿としましては、市民はできることをする、行政や事業所との役割分担をしつ	

かりして地球環境を良くしていくまちとなっています。また、地球環境についてもっと身近に感じられるようなまちという目指す姿も挙げられています。

自然環境分野の課題としては、放棄地をどうやって減らしていくかや、山の整備が行き届いておらず、イノシシなどによる獣害が発生していること、身近な自然が減っており、昔はよく見かけた植物などが最近は見かけられなくなっているというような課題が挙げられています。

目指す姿としましては、放棄地をもっと有効活用して海外の方との交流の場としての利用や貸し出しを行うなどの活用をしていきたいということが挙げられています。また、山の管理に対する関心をもっと高めていくことも挙げられました。

生活環境分野の課題としては、自転車や徒歩をもっと利用しようという計画にはなっているものの、通行できるような交通環境になっていないことや、自主運行バスが一部の地域にしかなく、利用者も少ないというような課題が上がっています。

目指す姿としましては、高齢者の方でももっと移動しやすい環境にしていきたいという意見が挙げられています。

協働の推進分野における課題としては、イベントの参加者が毎回同じであることや人が集まらないというような課題が挙がっています。

目指す姿としては、もっと楽しみながら環境について学べるようなイベントを行いたい、また学校教育において環境学習をもっと充実させていき、小さい子供のころからもっと環境について学んでもらいたいという意見が挙げられました。

〔拍手〕

【2 班】

まず廃棄物分野ですけれども、やはり加東市の課題としましては、ごみのポイ捨てが多いというのがありました。ただ、幹線道路沿いが主にそういったごみが目立つということで市外から来られている方も含めて、ポイ捨ての原因となっているのではないかといいことと、ごみ出しルールのマナーとしまして、生活習慣の異なる外国の方がおられたり、転入されてきた方がおられることで、ルールが分からないということも含めてごみ出しのマナーが守られていないこともあることが課題として挙げられております。

こういったことを踏まえまして、だれもが暮らしやすいまちづくりということが将来像として挙げられました。

続きまして地球温暖化の方ですけれども、こちらの方はやはり小中学生の学校教育の現場では環境学習が結構進んでいることや、生活実感として昔どうだったかというのを地域の人から学んでいく機会も重要だろうというようなご意見を頂きました。

こういったことを踏まえまして、子どもが学校で学んできたことを大人に教えたりとか、地域の方が昔はどうだったかということをお教えしたりだとかということで、世代間交流をしながらみんなで教え合っていくようなまちづくりというものが将来像として挙げられております。

続きまして自然環境です。自然環境としては、やはり加東市の問題として一番大きいものとして耕作放棄地の問題があると。そしてやはり山も放置されているということがありますので、耕作地、山林が適切に管理されている加東市ということを将来像として挙げられています。

続きまして生活環境ですけれども、やはり公共交通が最も課題だということで本数が少ないから乗る人も少ないし、どんどん本数も減っていつているという現状があるというご意見が出されておりました。

こういったことから、様々な人が、子供や高齢者、障がいのある方なども含めて、様々な方が市役所ですとか病院ですとか商業施設へのアクセスができるまちづくりを将来像としてまとめております。

最後に、協働の方ですけれども、議論いただいていたのが企業の中の環境教育というようなことから話が進みまして。やはり教育をするということは知識を増やすだけでは

なくて企業活動で言えば生産性の向上ですとか、利益の拡大といったことに結びついていくというようなこともあるということで。そういった環境が進みにくい中小企業にも環境学習を勧めていくことは、環境学習を受ける方にとってもメリットのあることであらうというようなことで。

もちろん活動に限らずなんですけれども、環境を学ぶ機会をもてるまちということが将来像として挙げられております。

〔拍手〕

【3 班】

まず、各分野の話に行く前に、全体的な感想なんですけれども、やはり最初にちょっとお話をさせていただいた通り、どの分野にも無関心である。その対極に協働とか教育があるのではないかというふうに推定していたのですが、やっぱり結果もそうだったなあというのがひとつです。

それから大きなキーワードとしては、どの分野にもかかわることとしてパートナーシップ、まあ SDGs で言えば 17 番のところですね、これが非常に関りが深い。それからどの分野についてもバランスが肝心要だということが出てきました。このバランスというのは一番直接的なところでは、経済性、家庭にとっても、事業所にとっても行政にとってもそうですけれども、お金のかかることと環境のことをどうやって両立していくかというのは避けられない課題だなという風に考えています。

その中でひとつひとつの目指す姿ですけれども、廃棄物の方ではごみを減らしたり再利用することに意識の高い市民が暮らす美しいまち。

そこに至った課題と言いますと、やっぱり意識が低いよね、だから関心も低いし知識も乏しいと。これらをパートナーシップをもって向上させていくということが必要だろうというふうになっています。

地球環境の方では、目指す姿が、ひとりひとりが自分の生活の先に地球環境があるという、あるいは地球環境を守っていくという、市民が暮らすまち。

そこに至った課題と言いますと、やっぱりですね、ひとりひとりにとっては地球環境と言われても大きすぎると。ひとりひとりの身近な問題として結びつかないので、この分野でも教育が必要であろうということで考えています。

自然環境の分野で目指す姿は、身近な環境を守り、維持しながら将来にわたってそれぞれの立場で安心して暮らせるまちということで。

ここに至った課題はですね、自然環境が大切だというのは分かっているけども、田畑を維持していくためには害獣がおっては困るとか、要はやっぱりここでもバランスが必要だということで、そのバランスを判断するためにも、教育、啓蒙がいるよねと。それから将来にわたって維持、持続していくっていう意味では、先々の次世代ですね、こういった担い手を作り出していくことも必要だなということで。これは農業だけの話ではなくて、生物多様性を守るとかあるいは教育の担い手とかいろんな面で担い手を育成していく、ここでも教育が必要だなということになっています。

生活環境、こちらの方で目指す姿は、インフラとかハードが整ってなくてもですね、隣近所が声を掛け合い、互いに助け合う温かい人々が暮らすまちということで。皆さんの意見もあったんですけども、本当にこれがすべての基本じゃないかなと。こんな町だったらどんな課題、どんな分野でも解決していけるのではないかというご意見がありました。

その中の細かい課題はですね、一番は前回も発表にありました通り、公共交通機関がないということに対して、いろんな組織に、あるいは集落も含めて相互扶助をしていく仕組みがあるだろうと。そういったことでは、ファミサポとかシルバーとか自治体とか会社組織もやっぱり一皮むけていかないといけない。

さらにはですね、そういったハードがそろっていてバスがあったとしてもバス停に行けない人に対してどうしていくのかということで、地域のコミュニティが密になって、

近所づきあいや助け合いができるようなところが必要だなと。どちらも行政の金銭的なサポートがいりますねと。

最後に協働・教育ですが、こちらの目指す姿は、地域のふれあいで互いに広い範囲の環境課題や意識を教え合い、高め合う人々が暮らすまちということで。

そこに至った課題としては、いろんなイベントをしてもですね、知らないあるいは参加することがないというようなことが多いので、そういったところをもっと環境は広いんだから、みんなの関心の高い交通手段であるとか次世代の担い手がいるとかいうことにも目を向けて、単なるごみだけが環境というのを脱していかないといけないなというふうに考えています。

また、人権学習は、仕組みが各集落で立ち上がっていて参加率が高いということなので、そういったところで環境についても仕組みを作っていく。あるいは、皆さんの関心が高いところの教育を実施する場を創っていったらどうかという話が出ています。

〔拍手〕

事務局 ありがとうございます。長らくのご議論ありがとうございました。ワークショップはこの時間を持ちまして終了したいと思います。

委員長 どうも皆さんありがとうございました。本日のご意見お声というものを今後の計画策定に活かしていかないといけないんですが、他に何かご意見等はございませんか。

委員 ちょっと確認をとりたいんですけど、前回から出ているこのお茶なんですが、一人一本ずつ出さなきゃいけないようなものなんでしょうか。

事務局 失礼します。まさにちょっと今日この後をお願いしようと思っていたところなんですけども、今日も一部の委員さんがマイボトルをお持ちいただいてまして、おっしゃられているとおり環境の会議ですので是非次回以降みなさまには水筒を持参していただきたいなと思っております。よろしいでしょうか。

委員長 皆さんよろしいでしょうか。

〔拍手〕

委員長 他には何かありますでしょうか。では次回からは水筒持参ということで。それではこれで協議を終了いたします。

以上